

「呼和浩特市高校生派遣感想文」

岡崎学園高等学校 3年 汐満 舞

私はこの呼和浩特市高校生派遣で様々なことを学び、体験することが出来ました。その中でも特に印象に残っていることが3つあります。

1つ目はホストファミリーとの交流です。ホストファミリーは16歳の女の子がいる家族でした。まず初めにおばさんの家に連れていってくれました。そこでお昼ご飯を一緒に食べたり、ホストファミリーと話をしたりしたのですが、ホストファミリーが「今から寝る？」と聞いてきました。中国では休日は昼寝をするのが慣らしく、昼寝の習慣があまりない日本人の私はそれを聞いたときとても驚きました。それから、ホストファミリーと屋台に行き、そこで中国伝統の飴細工を買いました。形は蝶々や鳥、ねずみなど様々な種類があり、私はその中で鳳凰の形をした飴細工を買いました。注文したらその場で作ってくれて、細かく失敗も出来ない技をすばやく行っていたのでとても感動しました。



ホストファミリーと

2つ目は各国の学生との交流です。日本、韓国、ロシア、モンゴルの学生がこの派遣に参加し、共に行動しました。どの学生とも英語でコミュニケーションをとったのですが、国ごとに英語を話す時の発音が大分違って、とても興味深かったです。特にロシアは簡単な英語でも聞き取りづらくて、日本人が使わない発音が多いから聞き取りづらいのかなと思いました。それでもその国独特の英語表現がたくさん使われていたので、勉



飴細工

強になりました。そしてサマーキャンプオープニングセレモニーでは各国の生徒がそれぞれの国の伝統文化を披露しました。国や地域の奥深さが感じられて、その伝統文化に関心を持ちました。各国の学生とは共通の話題で盛り上がったのですが、特に日本のアニメが好きな生徒が多く、とても話が盛り上がりました。日本では少年漫画などの戦闘アニメが人気なのに対し、他の国では少女漫画などの恋愛アニメを見ている子のほうが多かったです。中国の子達は独学でアニメを見て日本語を覚えていて少し話したのですが、発音も綺麗に話せていてとても驚きました。中国の子とはバスケの話で盛り上がり、今でもバスケや最近の出来事などを英語で連絡を取り合っています。それから、シラムレン草原で会った中国の子が日本文化に興味があると言ってくれたので、日本の伝統文化である茶道について教えてあげた



草原にて

ら、いつか日本に来たときに抹茶を飲んでみたいと言ってくれました。中国の子に日本文化を伝えられて興味をもってくれたことが嬉しく思いました。

3つ目は中国の文化、環境です。商店街に行った時、ほとんどの人が現金ではなく、QRコードで支払っていました。現金も持っていない中国人が多く、現金でしか買うことが出来ない店があるときは、現金を持っている子が全部払うということがありました。日本では現金を持っていないと生活が出来ないので、国が違うだけで日常生活や環境がこんなにも違うのだと改めて感じる事が出来ました。中華料理であるラーメンを本場の中国で食べました。思っていた味とは違い麺は固くて太く、酢を加えて味を調節するという感じのラーメンでした。とても変わった味で日本のラーメンとは大分違いましたが、日本のラーメンは日本人の好みに合わせて作っているのだなという印象でした。羊の丸焼きを初めて食べましたが、肉が柔らかくてとても美味しかったです。食べる機会があったらまた食べてみたいです。それから、シラムレン草原にある公衆トイレがニーハオトイレでした。ニーハオトイレというのは、壁の仕切りや水、トイレットペーパーも何も無く、ただ下に穴が開いているだけのトイレです。地域によって設備環境は違いましたが、日本の衛生環

境はとても恵まれているなと思いました。

私はこの6日間で各国の文化、慣習を身をもって体験することができ、より関心を持つようになりました。これからは英語だけでなく、中国語や韓国語など多言語も勉強していこうとより強く思うようになりました。いつか中国に行き、今回会った中国の子にまた感謝を言いたいです。そしてこの派遣で得た経験を活かし、私自身も日本の伝統文化や慣習をもっと深く学び、日本に来た外国人をもてなして日本の良さをもっと伝えていこうと思っています。6日間という短い期間でしたが、人生の糧になるような貴重で素晴らしい経験をする事が出来ました。